

# 家庭科 研究

2011  
No. 44

●企画・編集/財団法人 総合初等教育研究所  
●発行/株式会社文溪堂

## 「新学習指導要領 の展開」

テーマ/学習指導と評価の改善

### 目次

- **巻頭言**  
もったいない運動 秋元義彦 …… 1
- **論説**  
家庭科の学習指導と評価の改善 筒井恭子 …… 2
- **実践例**
  - ・ 学習指導と評価の工夫  
～生活に役立つ物の製作を通して～ 酒井 泉 …… 6
  - ・ 言語活動の充実を図る家庭科の授業  
～「洗濯」に関する問題解決的な学習を通して～ 栗原恵子 …… 10
- **INFORMATION**
  - ・ 小学校家庭科に関連する情報の紹介 …… 14
  - ・ 研究大会情報 …… 15



私は昭和28年5月生まれの58歳。今では常識になっている「教科書無償配布制度」の直前の生徒でした。すぐ上に姉がいたため、ほとんどの教科書は買わずに済んだ、というか買ってもらえませんでした。「お下がり」で充分、さらに赤ペンが入っていたので重要ポイントは明白でした・・・。

東日本大震災による巨大津波、そして原発事故をきっかけに、日本の「何でもお金の尺度で測る」という基準が変わってきています。モノを大切に扱うと云う日本古来の美德「もったいない運動」の再スタートです。弊社はパンの缶詰により、防災備蓄食のリユース、そして社会貢献型のプロジェクトを始めています。自然災害の多い日本では、イザッ! と云う時に備えた備蓄食が沢山ありますが、賞味期限が来ると廃棄される運命です。一方、食糧難で飢餓に苦しむ人口が世界に約10億人いるのも現状です。食品が捨てられる前に必要としている所へ運んで配るシステムを、パンの缶詰で実現させたのが「救缶鳥プロジェクト」です。

東日本大震災の被災地でもこのパンの缶詰が大活躍しました。全国の保有者がパンの缶詰に東北応援のメッセージ付きで義援物資として送り、現地の緊急食糧不足解消の一役を担ったのです。救缶鳥プロジェクトは期限前に下取りして飢餓地域へ贈られるシステムであり、また今回のような大災害の時には保有者が被災者を助けることができるものです。

資源やモノは有限ですので、身近な製品やサービス等を有効に再利用できるアイデアが求められています。再利用を考え資源を有効に使うことは、本来の日本人の生活に根づいてきたことです。今回の大震災は、日本人の「優しさとモノを大切に作る心」を、今一度考えるきっかけとなったのではないのでしょうか。

救缶鳥プロジェクト(株式会社パン・アキモト ホームページ)  
<http://www.panakimoto.com/index.html>

### 巻頭言



株式会社パン・アキモト 代表取締役

秋元  
義彦

### もったいない運動